

. まとめ

## まとめ - 今後の交通需要推計に関する検討に向けて -

本委員会での将来交通需要推計に関する検討を踏まえ、今後検討していく内容を以下にまとめる。

### (1) 全国及び地域ブロックの将来交通需要推計について

#### 1) モデル構築に用いるデータ

モデル構築に用いる道路交通センサス、パーソントリップ調査等の交通調査データについて、より有効に活用できるように、地域の社会経済指標や交通サービス水準を現すデータ整備とともにデータベース作成を行っていく。

#### 2) モデル構築について

推計の前提となるGDPについて

交通需要推計におけるGDPの取り扱い方法については、「GDPを外生的に用いる方法」、「GDPを外生的に用いない方法」それぞれについて検討したうえで、その実行可能性とあわせて判断していく。

旅客交通需要推計について

発生モデル及び機関分担モデルの同時推定の可能性について理論的及び実証的な検討を行うとともに、推計に用いる地域区分についてもデータの利用可能性等から検討していく。

貨物交通需要推計について

物流メカニズムの解明に関する基礎的な研究を行い、将来交通需要推計モデルへの適用の可能性を検討するとともに、別途、マクロなモデル構築の検討も行っていく。

モデルの精度検討及び定数項補正について

モデル構築を行うにあたって、基本的な考え方を示す「指針」を作成し、モデルの精度検討に必要な指標やその判断方法について示していく。

モデルの定数項補正については、具体の比較的近い将来のすり付け方法について検討を行っていく。

#### 3) 将来交通需要推計値の見直しの基準について

人口やGDP等の外生変数の変化や将来交通需要推計値の実績値からの乖離について、適宜チェックを行っていくとともに、今後の道路交通センサスをはじめとする新たな交通行動データの入手に伴って、新たなモデルの見直しを検討していく。

### (2) 地域別の将来OD表推計について

各地方整備局が、発生集中交通量モデル、分布交通量モデル構築を行うにあたって、基本的な考え方を示す「指針」を作成する。また、全国を対象とした分布交通量モデルについては、時系列モデルの適用性とそれに伴うモデルのより有効なゾーンの考え方についても検討を行

っていく。

( 3 ) 配分交通量推計手法について

現段階の実用的な手法である「分割・転換率併用配分法」の適用にあたって、モデルの精度向上等から検討を行っていく。一方で、より理論的な面から優れた「均衡配分手法」の適用についても、実務上の適用が可能なように、実証的な検討を行っていく。

( 4 ) 全国交通需要推計から将来OD交通量推計に至る推計手順について

全国交通需要推計から、各地方整備局が実施する将来OD交通量推計に至る推計手順については、旅客、貨物の交通需要推計それぞれについて、全国ベースでの自動車交通量（台トリップ）の推計方法について検討を行うとともに、本省と各地方整備局が行う具体的な推計作業内容を整理していく。